

<全体分析>

試験時間 2科目で120分

解答形式

記述・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

例年大問4題の出題である。

生物用語を問う知識問題が多く出題される。論述問題が多く、典型的な知識論述問題に加えて、実験データから考察する問題や問題文の内容から考察する論述問題も出題される。

昨年と比べて、論述量が増加した。また、教科書に記載されている内容ではあるが、その内容を論述で説明するのが難しい論述問題が出題された。

その他トピックス

遺伝子分野から2題出題された。

①問2・問3で、「図を用いてもかまわない」という形式の論述問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述 論述	遺伝子発現	生物	問2・問4 教科書に記載されている内容ではあるが、正確に文章で説明するのが難しい。	やや難
2	記述 論述	DNAの複製と進化	生物	問3 突然変異が蓄積したことにより、がんが発生することにふれる。	標準
3	記述 論述	呼吸	生物	問1 Gは下線部(3)の部位から「内膜」と答えるのが適当である。 問5 DNPを加えた際の条件が不明瞭であるため、考えにくい。 問6 ATPにより呼吸が抑制されることにふれる必要がある。	やや難
4	記述 論述	興奮の伝導	生物	問4 (c)のグラフから、伝導が遅れていることとニューロンごとに遅れの程度が様々であることを読み取る。 問6 表1に示された内容から伝導速度が大きくなる条件を読み取る。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

知識問題は基本的なものが多いので、まず教科書の内容をきちんと学習しておこう。例年さまざまな分野から出題されているので、生物基礎・生物の全分野をまんべんなく学習しておく必要がある。試験時間が短い割には論述問題が多く出題されているので、典型的な知識論述問題については、短時間で的確に論述できるように練習を積んでおく必要がある。知識を必要とする考察問題やデータを解釈する考察問題も出題されるので、問題集などを活用して問題演習を行うとともに、一つひとつの内容を正確に理解するように学習しておこう。